

エコな生活報告会、減装フォーラム開催

生活者 500 人の減装（へらそう）宣言

《日時》2012年2月10日 10:00～11:40

特定非営利活動法人ごみじゃぱん（所在：兵庫県神戸市灘区六甲台町2-1 神戸大学内／代表：神戸大学大学院経済学研究科教授 石川雅紀）は、**低炭素社会実現のため、包装ごみの少ない商品を選ぶ買い物基準を普及させ、日本のごみを減らすプロジェクト「減装（へらそう）ショッピング」**を、神戸市内で2007年2月より実施しております。その一環として**実施いたしました生活者自らがごみの計測を行い、生活を見直す生活実験「減装（へらそう）生活（2011年11月実施、実験参加110世帯）」の報告会を開催致します。**つきましてはごみじゃぱんの活動をご取材、ご報道頂きたくご案内申し上げます。

・減装生活

ごみじゃぱんでは、2011年11月に神戸市北区、**110世帯で減装生活**を実施致しました。減装生活は生活者の方々に**ごみを減らすことを意識した生活をしてもらうこと**によって**ごみの量がどの程度減るか調べる**とともに、実験を通して**生活者の気付き、意識の変化を調べる**実験です。

今回の実験によりごみの量は**可燃ごみ、容器包装プラスチックごみ**どちらも**相当程度減少する**結果が得られ、様々な気付きや発見がありました。これらの結果を踏まえ、本イベントは実験結果の発表と**北区区民による今後のエコ活動への意気込みの表明**を主旨としております。

・大垣市展開実験

本イベント終了後、**大垣市で2012年2月から展開する「減装ショッピング」社会実験**に関するインタビューの場を設けております。大垣市展開実験の概要につきましては別途ご案内させていただきます。

開催概要

■日時 2012年2月10日（金）10:00～12:00

■場所 神戸市立北神区民センター
（神戸市北区藤原台中町1-3-1）

■ アクセス

【電車でのアクセス】

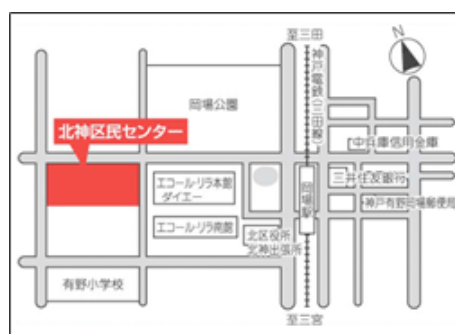
神戸電鉄「岡場駅」下車、徒歩5分

■ スケジュール

- ・北区区長 挨拶
- ・石川（ごみじゃぱん代表）基調講演
- ・減装生活 参加者の発表
- ・ごみじゃぱんより減装生活の結果分析発表
- ・ダイエー社より減装ショッピングと環境の取り組みについて

■ 参加者

北区長安藤直哉、生活者（約500名）NPO 法人ごみじゃぱん代表石川雅紀、同事務局長小島理沙、同学生スタッフ(数名)、株式会社ダイエー 総務人事本部 副本部長 野口敏光



減装生活概要

- 期間 2011年11月の任意の1週間で2回（ごみを意識する生活と意識しない生活各1回）
- 参加者 神戸市北区 110世帯
（有効なデータは可燃ごみ97世帯270名、容器包装プラスチックごみ102世帯293名）
- 内容 ごみを全く意識しない普段通りの生活を1週間、ごみを減らすことを意識した生活を1週間して頂き、意識がごみの排出量と、生活者自身がごみ量を測る事によるごみに対する意識の変化を調べる実験です。
- 実験方法
 - 1)各世帯に1台ずつ秤を配布
 - 2)ごみを全く意識しない通常の生活1週間、ごみを減らすことを意識した生活1週間の可燃ごみと容器包装プラスチックごみの量を計測し、工夫したことや気づいたことなどを記録
 - 3)データ回収、ごみの排出量の変化と気づき等を集計・分析
 - 4)分析結果を踏まえて、改めて参加世帯を対象に質問紙調査とグループインタビューを実施
- 実験結果 ごみの排出量について、個人によって差がありますが、全体として可燃ごみ、容器包装プラスチックごみ両方についてかなり減少する結果が得られております。詳細については当日発表致します。

意識調査においては、6割の方が日常生活でのごみが多いと感じている一方で、7割の方が努力によりごみは減らせると認識しております。

ごみを減らす様々な工夫がみられ、「水切り」「生ごみの肥料化」「分別の徹底」「スーパー回収箱の利用」などが実践されておりました。

「ごみの少ない商品の購買を心がける」取り組みは可燃ごみについては余り実践されず（90人中15人）、容器包装プラスチックごみについては4割弱（102人中35人）の方が実践しておりました。これは容器包装プラスチックごみについては、生活者自身による工夫の余地が乏しいことが理由と考えられ、容器包装プラスチックごみを減らすためには「ごみの少ない商品の購買を心がける」ことが重要だと言えます。

減装生活参加者に対するグループインタビューでは「ごみの重さを数値としてみる」、「ごみを意識する」ことで、調査以後も頭に残り、気にするようになったという声や包装の多さに驚くとともに、企業への工夫・努力を求める声が多くあげられました。減装生活を通じ、多くの方が少しの工夫でごみが減らせることを気づき、ごみに対する関心が高まったと言えます。

また、ごみの少ない商品が少なく（わからず）、商品を選べないとの声も寄せられ、「減装ショッピング」普及の必要性と生活者への積極的な呼びかけを通じて容器包装自体を変えていくことの重要性を改めて感じる結果となりました。

生活者自らがごみを実測することで、効果が見える化され、無意識なごみのことが意識化されることがわかりました。今後、減装生活を普及させていくことで、減装ショッピングの行動がさらに促進されることが期待できそうです。

ごみじゃぱんについて

■取り組みの背景

日本の容器包装のリサイクルは着実に進み、平成 21 年度のリサイクル率は 20.5%に達し、埋め立て量は 10 年間で約半減しています。しかし、その処理のために多額の費用を使っている現状があります。また、日本の容器包装は、内容物の保護以上に目立つ包装が採用される傾向があります。ごみじゃぱんは、2007 年、2008 年、2009～2010 年の実験を通じて、生活者が商品選択の際にごみ問題やリサイクルの費用などに気がつけば、より簡易な包装を選択することを実証してきました。

■減装(へらそう)ショッピングについて

ごみじゃぱんの学生達を中心となって企画・運営し、「ごみの発生抑制」を目的に“捨てる時”だけでなく“買う時”からごみの問題を考えるよう生活者に呼びかけています。同じカテゴリーの商品のなかで中身当りの容器包装重量が比較的軽い商品を「**減装(へらそう)商品**」として推奨しています。減装商品の中身当り容器包装重量の平均は、カテゴリー内全商品の平均の約半分(48%)です。生活者が推奨カテゴリー全体で「減装商品」を購入すると、重量で家庭ごみの約 25%、体積で約 60%を占める容器包装ごみが半分となり、重量 12～13%、体積 30%を減らせることが推計できます。



(R)

<http://gomi-jp.jimdo.com/>

■これまでの活動経過

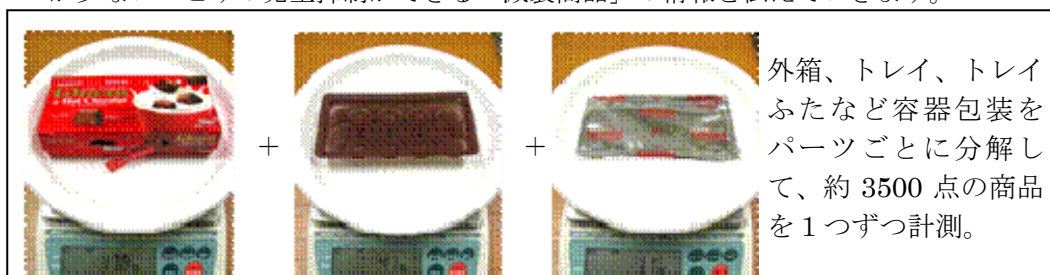
2007 年からの実証実験を受けて行った「減装ショッピング 2009-2010」(2009 年 11 月 13 日～2010 年 11 月 14 日)では、全国普及を目的とした基準作りと実施ノウハウ蓄積に取り組んできました。日常的に購買されている商品カテゴリー(生鮮を除く食品・トイレタリーなど)ごとに、協力店舗全商品の容器包装を独自に計測し(計測詳細は下記参照)、内容量単位あたりの容器包装が軽量化されているトップグループの商品を「減装商品」として推奨。売り場で POP などの目印をつけることにより、生活者が「減装商品」を自ら選択する購買スタイルを定着させるための活動を行ってきました。また 2011 年度では「減装ショッピング 2011」を実施し、学生達を中心となって、協働企業や生活者と連携しながら、PR イベント・子供達への啓発活動「減装学校」(下記参照)、生活者との対話と定性調査「減装カフェ」(下記参照)を行って参りました。

■「減装商品」の推奨方法

- 1) 小売店で販売されている商品から、食品(生鮮除く)・トイレタリー・文具を、使用頻度・用途・形状・調理法・活用シーンなどを考慮したカテゴリーに分類。
- 2) 容器包装の重量測定を行い、表示の内容量から「内容量 1 g 当りの容器包装量」を算出。
内容量 1 g 当りの容器包装量 = 容器包装の質量 (g) / 内容量 (g)
(※商品カテゴリーによっては「1 食当り」「1 回分当り」等の単位で算出)
- 3) カテゴリーごとに、「減装商品」を決定。

「減装商品」= 中身当りの容器や包装が少ない商品

- 4) 売り場の「減装商品」に推奨 POP など目印をつけて購入を促します。
- 5) 店頭ではポスターなど様々なコミュニケーションツールを用いて、生活者に、容器包装が少ない=ごみの発生抑制ができる「減装商品」の情報を伝えていきます。



■活動について

1)「減装カフェ」を定期開催。

神戸大学にて、「減装カフェ」を定期開催しております。地域の主婦の方たちやメーカーの皆さんにも参加していただき、容器包装ごみや、日々のくらしと環境の問題について意見交換をします。現在4月から5回実施7月の減装カフェには山崎製パン株式会社にもご参加頂きました。生活者の方々から共感、多種多様なご意見を戴いております。



2)「減装学校」では、小学校や児童館などへNPOごみじゃぱんの学生達が出張講義。

神戸市灘区の児童館を中心に実施、何気なく普段食べているお菓子を通じて子どもたちとごみ問題に関心を持てるゲームなどを行いました。2011年度は中学校での出張授業も行い、未来の生活者への啓蒙、教育活動を大学生主体で行っています。



3) その他、環境イベントへの参加

生活者に容器包装を考えて頂くべく、環境イベントに参加しています。2011年は

- ・神戸総合運動公園でのグリーンフェスタこうべ2011
- ・伊丹リサイクルフェスタ 10/29

などに参加いたしました。

特定非営利活動法人ごみじゃぱん

【設立】 2006年9月5日

【代表】 石川雅紀（神戸大学大学院経済学研究科 教授）

【事務局】 ・所在地 神戸市灘区六甲台町 2-1 神戸大学内六甲台第一キャンパス
第2研究室 107号

TEL:078-803-3005 FAX:078-803-3006

・事務局長 小島理沙

【発足の経緯と活動内容】

2005年10月、ごみゼロパートナーシップ会議がまとめた「簡易包装普及のためのシステム検討委員会平成15年度報告書」で立てられた仮説「ごみ問題を知り、インセンティブが与えられれば、生活者（消費者）の消費行動が変わる＝ごみが少ない商品選択を行う」を実証すべく、有志が集まりNPO法人設立を決定。前日本包装学会会長であり、長年に渡ってごみと環境の研究を重ねてきた神戸大学大学院経済学研究科教授・石川雅紀を代表に、社会人及び神戸大学の学生が中心となって発足しました。

発足以降、産官学民の連携で無理なくごみを減らせる社会作りを目指すNPO団体として、社会全体でごみの発生を抑制し、発生したごみは出来るだけ適切に処理していく活動を企画・展開しています。消費者、事業者、教育研究機関及び行政と連携して、簡易包装の普及、ごみの分別とリサイクルの向上、新たなリソースチャンネルの開発及びごみを少なくするための商品の製造・販売等に関わる社会実験を実施し、そこから得られた知見を基に、ごみ問題の抜本的な解決に資する社会的仕組みづくり及び自然環境と調和した都市づくりに寄与しています。

《本件に関するお問い合わせ先》

特定非営利活動法人ごみじゃぱん事務局
ホームページ <http://gomi-jp.iimdo.com>

TEL:078-803-3005 FAX:078-803-3006

開局時間 平日 13時~17時